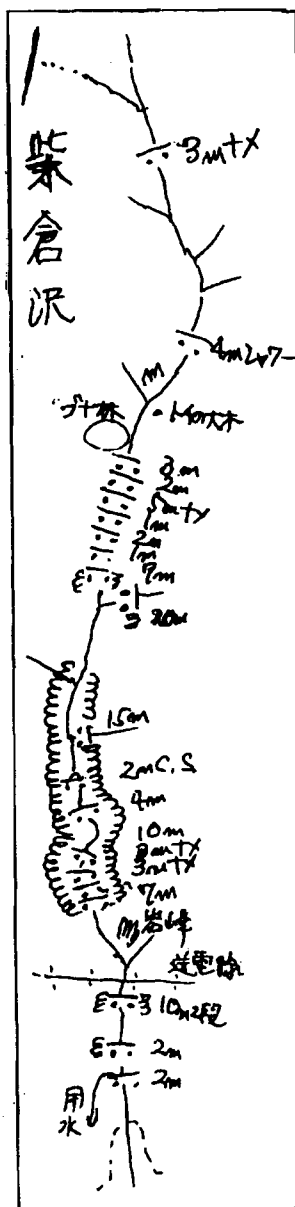


只見川中流域左岸の沢

柴倉沢 1991年8月24日
L2

西部橋から只見川左岸の踏跡をたどって、40分程で柴倉沢出合。出合は特に目



立つような沢ではないのだが、上部に滝がかかっていることは、昨年の偵察で確認されている。農業用水の取水口にかかる2mの小滝を越える。このあたり沢は函状となり、岩は磨かれ、滝よりも釜のへつりに苦勞する。まもなく10m 2段の滝。左岸のブッシュとの境を登り、上部は岩棚をトラバースして上に出る。出だしは上々。好天に恵まれたこともあり、気分がよい。

送電線の下をくぐると、前方に岩峰が見えてくる。そそりたつ岩峰のすそを周り込むようにして進むと、7mの滝が行く手をさえぎる。いよいよここからが核心部である。右岸を登り、草付きを落口へとトラバースして越える。かなり微妙なトラバースとなった。後続にはザイルを出す。7m滝の上は、左岸がハング状のカベとなり、そこに3mの小滝が2本続く。沢幅は1mほどに狭まり、距離は短いがゴルジュをなしている。下の小滝の釜は、腰までの波渉となった。小滝を越えると沢は右手に曲がり、そこに10mの滝をかける。この滝は直接にはとりつけない。かといって左岸はハング状となった岩壁だし、右岸もそそりたつ岩場で、ルートを求めることもできない。袋状のどんづまりに手におえない滝がかかっている感じである。ここを越えるには、7m滝の上まで戻ってルートを求めるしかない。倒木を利用しながら登ってきた2つの小滝を下り、7m滝の上に戻る。ここも両岸は岩場となっているが、左岸が何とか登れそうである。ザイルを出し、溜木にビレーをとりながら登る。5m程登

ってから左上に向け、浮石の多い斜面をトラバース。あとは小尾根を下り、沢に戻る。この部分は、このルートしかないという感じである。

このあと4mの滝を越えると、沢は次第に平凡となる。兩岸の側壁もいつしかなくなってしまう。これでこの沢はおしまいかと思ったら、さにあらず。まもなく7mの滝が行く手をふさぐ。右岸を登り、上部は灌木帯に入り込んで落口にぬける。このあとも小滝が続く。大きな釜をもつ小滝を樹木を利用しながら越えると、右岸が平坦なブナ林となって、沢は平凡となった。

あとは源頭近くまで小滝2つがかかるだけで平凡で平らな沢筋が続く。下降は下の沢と決めていたので、沢の水も溜れた所で左のルンゼに逃げて、下の沢の源頭を目指す。4時間半の行程であった。(きり)

【タイム】 西部橋(6:35)→柴倉沢出合(7:15)→遊行終了(11:50)

海沢 1991年8月25日

海沢出合に車を止めて、6:40遊行開始。出合の様子ではたいした沢であるまいと思ったのだが、適当に滝が出てきて、結構楽しい沢登りとなった。

出合から少し登り、左手に小沢を分けると小滝が断続する。いずれも適当にホールド、スタンスがあって、直登を楽しむ。農業用水の取水口を過ぎると、5mの滝。針金が下がっているが、何のためのものだろうか。別にここより上部で山仕事をしているような場所もみられなかった。右岸を直登する。

このあとしばらくはナメが続くだけで平凡。送電線の下を過ぎるとまた小滝が続くようになる。ここも適当にホールド、スタンスがあり、それぞれにルートを求めて楽しく登る。

やがてツルツルに磨かれた5mの滝。ここは右岸草付を登る。この滝をきっか

